

# 体験研修と情報交流

## さらなる活動の活性化をねらう

### 環境保健夏季大学 分科会報告

今年度の夏季大学は、1日目に当協会が主催する専門研修を体験する分科会を、2日目には、無関心層への働きかけについて情報交流する分科会を実施しました。分科会の実施内容について紹介します。



公衛協クイズは、「ウン」  
「本当」の札で回答した

#### 「ミニ専門研修体験」

専門研修は、公衆衛生推進委員の力量形成及び組織強化を図るため、あるテーマについての専門的な知識・技術の習得を目的に開催しており、今年度は5つのコース(表参照)を実施しています。

夏季大学では、この中から特に活用いただきたい専門研修と、健康寿命の延伸を目的に当協会が取り組んでいるフィットネス事業を体験する分科会を実施しました。

#### ①「基礎研修の開き方コース」

基礎研修のデモンストラクション、公衆衛生推進手帖の掲載内容を確認し、基礎研修の実施提案やプログラムの



牛乳パックを使ったリユース工作で「変わり絵BOX」を作る参加者(上)、無関心層へ働きかける方法を小グループで意見交換し発表する参加者(下)

②「ごみ減量・3Rコース」  
ごみの減量や3Rについて、パワーポイントを使って学習しました。また、ごみについて学んだほか、環境祭りなどの

③「広報・ツールづくりコース」  
広報に関するミニ座学と、当協会が作成したチラシを教材にした「見所」チェックを行いました。チラシを見た際、どこに視線が行くか、その場所を指差し、製作者の意図と読者の反応の違いについて体験しました。

④「マシンとボールを使う運動体験」  
運動器症候群(「ロコモティブシンドローム」)の予防についての座学、オリジナルセルフケアグッズ「Love-a-Baari(フヴァポール)」を通じて転倒予防につながるストレッチ体験を実施しました。

#### 「無関心層へ働きかける方法の検討」

基調講演を参考に、「環境づくり」、「健康づくり」、「認知度・参加率UP」の3つの分科会に分かれそれぞれの市町公衛協が取り組んでいる活動内容や課題を共

有し、今後の活動に活かしていくことをねらいに情報交流会を行いました。各分科会の情報交流会では、「斉清掃」「エコチェック事業」「ウォーキング」「献血」「チラシ」など、公衛協の実践活動をキーワードに5名程度の小グループに分かれ、無関心層はどんな人たちのなか、「これまでどのような働きかけをしてきたか」「参考にしたいアイデアや気づきがないか」「何かアドバイスできないか」などを話し合いました。

参加者からは「特効薬はないので、参加するのを待てるという工夫をしたい」「同じ清掃事業でも運用方法の違いを知ったなどの感想が寄せられました。今年度の夏季大学も、活動を盛り上げるために必要な知識や方法論を学び、体験の交流を通じて今後の環境保健・公衆衛生の向上と活性化を図ることをねらいに開催しました。このプログラムがきっかけとなり、活動の活性化につながることを期待します。  
(地域活動支援センター)

#### ○平成28年度の専門研修

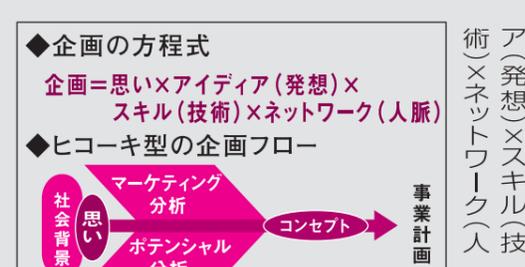
事業名	内容	開催日・場所
基礎研修の開き方コース	公衆衛生推進手帖を活用した研修の手法について体験を通して学ぶことで、教育担当リーダーの養成を行い、公衛協活動の活性化を図る。	5月11日(月) 公衆衛生会館(広島市) 5月12日(火) 環保協東部支所(福山市)
ごみ減量・3Rコース	廃棄物に関する法律やごみ減量の方法、3Rについて体験を通して学ぶことで、教育担当リーダーの養成を行い、公衛協活動の活性化を図る。	5月30日(月) 公衆衛生会館(広島市) 6月17日(金) 環保協東部支所(福山市)
広島県がん検診推進員養成研修	広島県が作成したテキストを使用した研修を開催。がん検診に関する知識を習得し、がん検診の受診勧奨を積極的に行う人材を養成する。	7月13日(水) 公衆衛生会館(広島市) 8月29日(月) 環保協東部支所(福山市)
広報・ツールづくりコース	公衛協活動をPRしていくツールづくりのノウハウを体験を通して学ぶことで、広報担当リーダーの養成を行い、公衛協活動の活性化を図る。	9月13日(火) 廿日市市民活動センター 9月14日(水) 尾道市総合福祉センター
企画づくりコース	地域で抱える問題・課題について整理し、解決するための「思い」を「かたち」にする企画づくりを行う。また、他市町との交流を図る。1泊2日の宿泊研修。	平成29年 1月19日(木)~20日(金) グリーンピアせとうち(呉市)

### 「無関心層」への働きかけの基本のキ 思いを基礎に自分と相手を分析



第55回環境保健夏季大学講演要旨  
広島修道大学 人間環境学部教授 西村 仁志 様

講師の西村氏は、1993年に環境共育事務所カラスを開業、同志社大学准教授を経て、現在は広島修道大学人間環境学部の教授です。専門領域は、環境教育・青少年教育・政策科学・ソーシャル・イノベーションです。今回は、これまでの経験から、無関心層へ働きかけるヒントをお話していただきました。



企画のポイント(上)、熱心に聴講する参加者(下)

関心のある人たちに比べ圧倒的に多い「関心のない人たち」に働きかけるポイントは、「大切な時間を使っても良い」と感じさせることです。そのために必要なものは「企画の方程式(企画=思い×アイデア(発想)×スキル(技術)×ネットワーク(人脈))」と「ヒコキー型企画のフロー(図参照)」です。特に「思い」が重要で、社会背景から「こうしたい」という思いを具体化させたものが企画です。

思いを基礎に、社会動向と顧客を知る「マーケティング分析」と私たちの持つ力を

「来てほしい顧客」を絞り、その顧客に働きかけるにはどうすれば良いかを考えていきます。

最後に、広報活動(働きかけ)を行います。食事やトイレなど誰もが必ず行うことと結びつける、複数の情報発信手段を持つ他の活動と一緒に実施する、なども広報活動のひとつです。「来てほしい顧客」に届ける広報活動が重要で

次に、働きかけるための情報をまとめます。全体の骨格となる発想・視点・考え方をまとめた「コンセプト」の整理と、「コンセプト」と企画の全体像を分かりやすく表し、興味の持てる「ポイント」が

(編集部)